



〈以和為貴〉



今必要なこと！

「和を以つて責しと為す」

聖徳太子の一七条憲法は第一条「和を以つて貴しと為し、忤ろうこと無きを宗と為せ」で始まります。これは「平和」というよりは、身近で具体的な「調和」を示したもので

オーケストラのハーモニーです。様々な楽

器が違った音を出しながらも全体として見

事に調和するように、人は全てにおいてみんな違っていますが、全体として調和すること、金子みすゞさんの「みんな違つてみんないい」というのが調和でしょうか。更に具体的には第十条に

念を絶ち、瞋を棄て、人の違うを

怒らざれ

人皆心有り。心おのおの執るところあり。

云々と続きます。「自己の憤りを沈め、他に怒りをぶつけるのをやめ、自分と違う意見に腹をたてるな」つまり、無益な対立をやめお互いに議論を尽くせば、相互の理解が進み調和の道筋が見えてくるということでしようか。

※正義の戦争なんてない！

「堪忍袋の緒を切ることなく、徹底的に議論せよ」、これこそ今ウクライナ、ロシアとそれを取り巻く国々に必要なことでしょう。（短気な私への戒めでもあります！）

殺し合いが正当化されること 자체が悪い

ある。積尊は次のように説いておられる。

すべての者は暴力におびえている／すべての者は死をおそれて／

（他人を）自分の身に引きあてて、殺してはならない／殺させてはならない

（殺すことを傍観してはならない）（法句

経一二九）

誰でも我が身が愛しい。我が子が可愛い。立場を変えれば、世界中の人がみな同じ思いのはずである。私は一刻と報道されるテレビの画像をなすすべもなく傍観しているだけの自分に気付いて仏教徒として情けなかった。今はただ人道的な早期終結と復興を祈るばかりである。

寂光院山主 松平實胤

100周年

築・百年の研修道場・聖徳殿を想う

松平 實胤

〈聖徳太子一、三〇〇年御遠忌記念建立・聖徳殿〉

当山には聖徳太子を御本尊とする「聖徳殿」がございます。令和三年（二〇二二）は聖徳太子が推古三〇年（六二三）に崩御されてより「一、四〇〇年御遠忌」に当たり、当山では御祥月命日の二月二十二日に聖徳殿で御遠忌法要を厳修いたしました。

この聖徳殿は大正十年（一、九二一）、丁度一〇〇年前の「一、三〇〇年御遠忌」を記念して建立されました。

〈聖徳太子・孝養像〉

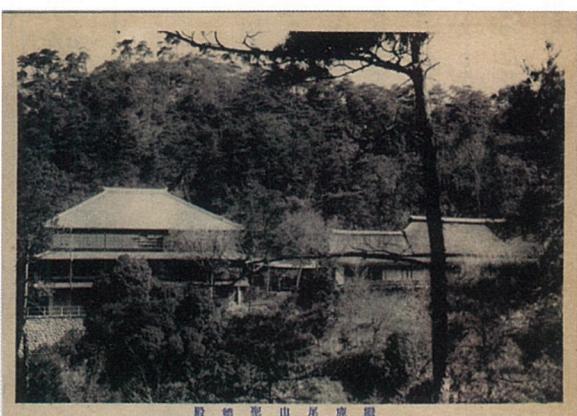
御本尊の聖徳太子像は聖徳太子が十六歳のみぎり、ご尊父・用明天皇のご病気平癒を祈られているお姿とされる孝養太子像です。時の寂光院山主・岩田大法大僧正は

泊研修道場として注目され、各方面各団体の研修が催されたと聞いております。聖徳殿から幾多の前途有為な青年が世に送り出され、活躍された方は枚挙に暇なく、愛知県を代表する錚々（そうそう）たる方々のお名前を見る事もできます。

戦争末期には師範学校附属小学校（現愛知教育大学附属小学校）の疎開児童の教育並びに生活の場となりました。

浴場、二階は寝所、三階が研修道場です。渡り廊下を挟んで別棟には報恩殿が建立されました。仏殿と、賓客用の寝所となっていました。

〈聖徳殿から戦後復興の担い手育つ〉



創建時の絵葉書 左 聖徳殿 右 庫裡

伊勢湾台風で寂光院伽藍は壊滅
(昭和三十四年)

戦後も真言宗僧侶の研修、宗教者の研修が頻繁に催され、各地の青年団の研修、青少年の集いなど、各分野を問わず、盛況だったそうです。

しかし、昭和三十四年の伊勢湾台風は山の形を変えたという程の大災害に見舞われ、山寺の宿命で倒木の数おびただしく山上の本堂他、伽藍はほとんどが全半壊の状況で、古代建築に指定されています。した庫裏は全壊し、風光明媚な尾張最古刹寂光院は世間から忘れ去られる憂き目にあつたということです。幸いにも聖徳殿は倒壊は免れ、ここを拠点として時の山主・鬼頭法円僧正は復興に着手、艱難辛苦の末、半壊の本堂、全壊の庫裏を見事に復興されました。

〈聖徳殿大改修 (昭和四十九年～五十年)〉

私は昭和四十八年五月に先代鬼



三階 仏殿・研修会場

頭法円僧正の後任として二十六歳で寂光院に晋山しました。その経緯は晴天の霹靂としか言いようがないませんが、聖徳殿を案内されて驚きました。倒壊は免れたものの雨漏りがひどく、畳から草が生えている惨状を目当たりにして絶望のあまり夜逃げを考える毎日でした。しかし、沢山の善意の人々のお陰で奮起を促され、大改修を決断しました。

〈宿泊研修を再開したものの、懺悔！懺悔！〉

昭和五十一年春より、全く暗中摸索の中から宿泊研修所を再開い

て朝早く起きてお茶を沸かす、トイレの掃除、貸ぶとんの手配、お風呂の準備、その後片付け、宿泊団体からのクレームの対応やら、戸惑うことばかりでした。夜は翌朝の研修講義の原稿書きに追われました。その結果は住職として、全てに不完全で中途半端でしたので、毎朝御本尊千手観音様に「懺悔！懺悔！」の繰り返しでした。

〈聖徳殿大盛況〉

聖徳殿はかつて宿泊研修を経験された方々の口コミで、全国各地から業種を問わず各企業の研修、各大学の合宿、武道、書道、美術、芸能、句会を始めとする文芸の集いなど、賑々しくお集まりいただきました。やはり全山を国定公園に、参道はすべて東海自然歩道に指定され、静寂な山寺というのが

たしました。しかし、宿泊研修団体を受け入れるということは、「旅館業務」を始めるということであります。従業員は私と家内の二人です。朝早く起きてお茶を沸かす、トイレの掃除、貸ぶとんの手配、お風呂の準備、その後片付け、宿泊団体からのクレームの対応やら、戸惑うことばかりでした。夜は翌朝の研修講義の原稿書きに追われました。その結果は住職として、全てに不完全で中途半端でしたので、毎朝御本尊千手観音様に「懺悔！懺悔！」の繰り返しでした。

〈宿泊研修所の役割を終える〉

しかし、昭和から平成へと変わる頃には、各地に最新の設備の整った研修センターができ、聖徳殿はそれに取って代わられ、徐々に稼働率は低下しました。平成十一年に本来の宿泊研修所としての機能を、平成二十年には日帰り研修所という機能も閉じさせていただけきました。やはり全山を国定公園に、参道はすべて東海自然歩道に指定され、静寂な山寺というのが

たしました。しかし、宿泊研修団体を受け入れるということは、「旅館業務」を始めるということであります。従業員は私と家内の二人です。朝早く起きてお茶を沸かす、トイレの掃除、貸ぶとんの手配、お風呂の準備、その後片付け、宿泊団体からのクレームの対応やら、戸惑うことばかりでした。夜は翌朝の研修講義の原稿書きに追われました。その結果は住職として、全てに不完全で中途半端でしたので、毎朝御本尊千手観音様に「懺悔！懺悔！」の繰り返しでした。

〈宿泊研修所の役割を終える〉

甲子園を目指す某名門校の合宿など懐かしく思い出されます。当山は真言宗智山派の寺院ですので、智山派の各種の全国大会、また宗派を超えての全国大会も多数開催されました。

〈ただただ感謝！感謝！です〉

当山は真言宗智山派の寺院ですので、智山派の各種の全国大会、また宗派を超えての全国大会も多數開催されました。

私が寂光院に晋山して初めての仕事が聖徳殿の大改修でした。そして宿泊研修所の再開でした。多種多様な研修団体をお迎えしましたが、私は会場主としてすべての研修会に関わらせて戴きました。

お陰様で大変鍛えられました。得難い人脈も広がりました。これこそ、私の人生の大きな財産となりました。感謝しても感謝しきれるものではありません。

〈一〇〇年の間、聖徳殿・報恩殿ありがとう！〉

大正十年に建立された聖徳殿は昭和五十年に大改修されました。しかしそれからまた丁度五十年目にを迎えます。今まで大改修を余儀なくされるほどあちこちの損傷は

聖徳殿の付加価値でしたので、どの団体様にもご好評を戴きました。また聖徳殿開設の本来の青少年育成の場として各団体からお集まりいただきました。殊の外、県下各市町村の青年会議所の皆様には、頻繁にご利用いただきました。甲子園を目指す某名門校の合宿など懐かしく思い出されます。

「写仏教室」「講演会」など本来の寺院活動の場として今に至っています。

甚だしい限りです。今度は規模も昭和五十年の大改修の比ではありません。

築一〇〇年ですから当然耐震基準は満たしておりません。さ

らに聖徳殿は崖の上にあります。一旦災害に見舞われて倒壊すると即、犬山市道に崩れ落ち、崖条例にも抵触します。また急な

山肌に沿つてできている建物ですから、館内の移動に際しても犬山城の階段のように上り下り

が大変で、ご年配の方、足のござ自由な方には全く不向きです。

〈聖徳殿・報恩殿二棟を解体処分〉

私も七十六歳、後期高齢者となりました。寂光院への晋山が二十六歳でしたので、住職歴五十年です。次世代に負の遺産は残せません。責任の重さを痛感いたします。後顧の憂いの無いよう、この度聖徳殿・報恩殿二棟の解体処分を決定致しました。しかし、聖徳殿並びに報恩殿は

木造三層建てです。規模も広大です。解体するにしてもそれだけ莫大な費用を要します。新

たに再建するにしてもよほど規模を縮小せざるを得ません。

しかし、創建時の山主岩田大法大僧正の崇高なるお志を伝承し、御本尊聖徳太子からお徳を戴かれた数多の皆様方の想いを無にすることなく、いすれ新たに聖徳殿を再建する決意でございました。

大正十年（一、九二一年）聖徳太子一、三〇〇年御遠忌記念に建立された聖徳殿並び報恩殿は老朽甚だしく、大改修には莫大な費用を要するため、解体処分を決定いたしました。
※令和三年（二、〇二一年）聖徳太子一、四〇〇年御遠忌を迎えた。本年で丸一、四〇〇周年でございます。この一〇〇年の聖徳太子に対する報恩謝徳の念篤く、現在の広大な聖徳殿の規模を縮小して「新たな聖徳殿」の再建に向けて精進いたす所存でございます。

何卒宜しくご賢察のほどお願い申し上げます。

令和四年七月吉祥日

合掌
継鹿尾山　寂光院山主　松平實胤

合掌

追記

聖徳殿の御本尊・聖徳太子（孝養像）を祀る仏殿は原状のまま新たな聖徳殿に移築いたす所存でございます。

聖徳殿・お別れ講演会（千手会総会・記念講演会）

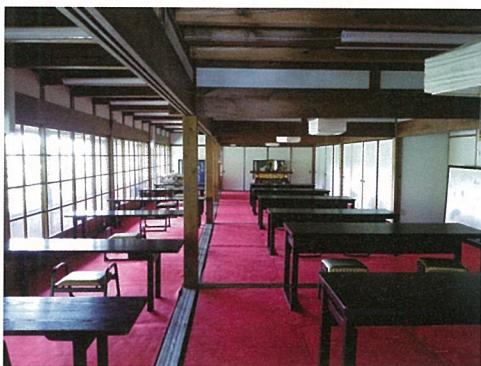
十一月十三日 午前十一時

特別講師 中日新聞社

顧問・主筆（前社長）

小出宣昭氏

世界の最新の動きを語つていただきます。



二階 お写経・写仏会場



公告 研修道場・聖徳殿並び報恩殿



追悼 ひろさちや先生

松平 實胤

令和四年三月三〇日夕刻、奥様から電話が入りました。「いつもなら、ご自分で直接電話をされるのに」と思いつつ電話を受けると先生に代わされました。「お別れが言いたくてね。実は僕はがんが進行してね。明日死ぬと思う」という内容でした。突然のことでの内容を納得なんかできません。

床についても寝付かれぬまま悶々と翌朝を迎えた。何度も何度も「即上京してお見舞いに行かなくては」と思いながら、「がんに感謝している。お別れの電話ができるんだから、」という先生の言葉を思い返して思いとどまりました。しばらくして四月七日に逝去されたとの報が入りました。先生らしい潔い最後だったと思います。

先生との出会いは、東京芝増上寺での仏教講演会でした。第一印象は「服装、髪型」が実におしゃれでいらっしゃったこと、仏教講演会のイメージが一八〇度変わるほど明快な内容だったことでし。昭和六〇年、先生が「インド仏跡巡礼」を企画されたと聞き、即参加しました。(その後幾度となく、先生との旅は続きました) そして、その年の八月九日の「九万九千日大祭記念講演会」に先生をお招きすることができました。以来、毎年一度も欠かさず、講演をして戴きました。

当山の檀信徒の皆様にとつても「楽しい仏教講演会」として身近でかけがえのない先生でした。惜しみても余りあります。

さて、改めて先生との関係です。先生は一九九四年「週刊文春」に「私家版 四字語辞典」を連載されていましたが(後に日本経済新聞社から「四字熟語の知恵」として刊行)、その中で四字語として「十年一日」を取り上げられたことがあります。実はその冒頭の書き出しが、

「一九三六年七月二十七日が、私の誕生日である。愛知県犬山市の寂光院の松平實胤山主は、一九四六年七月二八日に生まれた。だから、松平山主とわたしは、

——「十年一日」—— の関係である。」

ということでした。早い話が、週刊文春が先生と私の「十年一日」の関係を全国に公表したようなものでした。その十年一日は「全く代わり映えしないまらない関係」という意味ですが、先生と出会って四十年余、学ばせて戴いたことは量り知れません。私にとっては「無上の関係」を戴きました。

合掌



春は花、夏青もみじ、秋は紅葉、冬凛として靈氣漂う
県下最古刹 1360 年の歴史、国定公園という緑豊かな自然
尾北隨一「春の爽やかな青もみじ、
秋の雅なまでの紅葉樹林」に囲まれた

もみじ樹木葬地



寂光院の「もみじ樹木葬地」は、
寂光院が好きで自然志向の皆様方、
お墓の継承や無縁化が心配とお考えの方、
紅葉のもとで自然に還る、新しい形の永代供養墓です
<詳細は寂光院事務所まで>

お問い合わせ 0568-61-0035

詳しくは

犬山寂光院

検索



令和三年 九万九千日記念慈悲行

国登録文化財「山門〈薬医門〉」

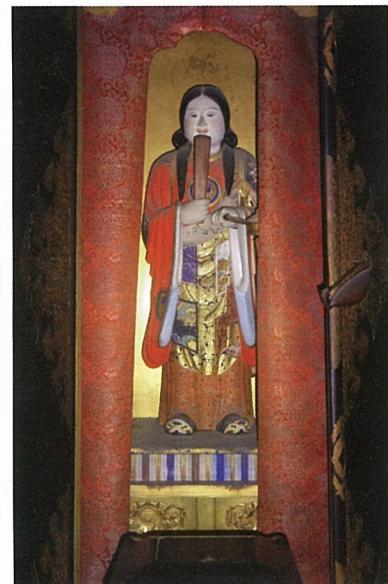
屋根瓦吹き替え事業・完了

当山の山門は匠長・竹中和泉正敏（竹中第九代、現株竹中工務店）の建築で、小ぶりですが、実に優美ということで、平成十七年に国登録有形文化財に指定されました。この度、左ページ各企業様並びに篤信の皆様のご協賛により、六十年ぶりに瓦屋根の吹き替えが完了致しました。ここに衷心より御礼申し上げます。

令和四年 九万九千日記念慈悲行

◎研修道場・聖徳殿・**100周年** 御本尊「聖徳太子・孝養像」報恩謝徳・解体修復

聖徳太子は六二二年に崩御されました。昨



思い出に残る講演会

真言宗智山派東海教区【檀信徒教化大会】

令和四年六月一日 名古屋市吹上ホール

寂光院は真言宗智山派東海教区に属します。四年に一度の教化大会ですが、今回は真言宗智山派管長・総本山智積院化主の布施淨慧大僧正猊下をお迎えして開催されました。管長猊下お導師のもと厳粛な法要が営まれました。その後、会場の二六〇余名の皆さまは、管長猊下より直接「発心式」をお受け戴きました。こんな機会はまず滅多にありません。同席しました私が感激したくらいです。

口口ナ禍で講演の依頼も珍しく、令和四年二月十九日、春日井市「第二十七回文化講演会」以来のことでした。今回は法要の前に法衣の正装で講演をさせて戴きました。思い出に残ること思います。



※発心とは発菩提心（菩提心）を起こすです。どなたもどなたも仏様のような淨らかな心が、それぞれの自心に生まれ持つて具わっています。発心とは普段はすっかり忘れていましたが、（菩提心）（=淨菩提心）が間違いなく自心に存在するのだとしつかり目覚める事を言います。

今年度の九万九千日の記念慈悲行として、皆様方の御信援ご協賛を伏してお願い申し上げる次第でございます。

令和三年度 九万九千日記念慈悲行 順不同敬称略

◎大慈悲会員

大口町 タイム技研(株)

大口町 タイム技研(株)

◎慈悲会員

福玉精穀倉庫(株)

福玉(株)

福玉米粒麦(株)

福玉ロジスティクス(株)

(有)マルカメ

桑原木材(株)

桑原木材(株)

福玉(株)

(株)タイセイ

(株)ともいき福祉会

永井ビル

(株)ともいき福祉会

福生院

小牧市 社本 宮明

社本 光永

社本 崇志

春日井市 早矢仕 修

近藤 銅一

知立市 知立市

近藤 銅一

◎篤志会員

東京都 (有)三幸電機製作所

犬山市 (医全医会 あいちせぼね病院)

犬山動物総合医療センター

(株)キトウ商会

小島板金工業(株)

(株)新栄工業

センガ(株)

(医)竹内整形外科クリニック

(株)東海SUNKEN

(株)はぐろ薬局

(株)本多石材店

(有)米正商店

(株)いづみ

大昭運輸(株)

田中産業(株)

(株)吉香

(株)栗田商会

(株)シャチハタ(株)

(医)高田

(株)竹中工務店

名古屋支店

中山工業(株)

名古屋鉄道(株)

リテック徳倉(株)

(株)八幡ねじ

(株)ヤマワ

(株)サンクイット

一宮市 可児市

各務原市

横浜市

犬山市 田中 一行

扶桑町 杉浦 尚三

犬山市 谷津 義雄

名古屋市 (株)柴田営業所

名古屋市 小牧 松本

名古屋市 東京都 小島 康譽

◎協賛会員

犬山市 赤川商店

犬山建設(株)

(株)岩田コーヒー店

(株)大金螺子製作所

(有)大沢瓦店

(有)大野屋

ごとう歯科

澤野プロパン(有)

(有)寅屋

花の香花園

美乃又住宅設備(資)

(同)みやこや

(株)名古屋モウルド

社会保険労務士法人MASE

扶桑町 三栄商事(株)

扶桑町 (株)坪井利三郎商店

(有)花貴久

原啓印刷(株)

宝和化学(株)

宗次ホール

鈴弥(株)

(株)さんぽーる

岐阜市 三伸商事(株)

水戸市 (株)三愛工芸

八王子市

玉垣御志納 順不同敬称略

小牧市 山口泰三・千恵子

坂祝町 梅田 博・ともゑ

扶桑町 小西信一・真代

扶桑町 山田昇一・孝子

扶桑町 德永シズ子

篤信御志納 順不同敬称略

扶桑町 山田昇一・孝子

扶桑町 德永シズ子

関市 井戸眞知子

〈四季の鉢植え〉

